協会で交わされるのは、表に出ることの少ない実務の話や、業界の空気感だ。資材の供給状況、法制度の運用、現場で起きている細かな変化。そうした一般には出回らない情報は、インターネットや資料だけでは十分にすくいきれない。多くの情報に溢れている今の時代、本当に知りたい情報は自分でつながった人たちのなかにあるのかもしれない。

「懇親会とかで話してたら、『あ、それ、今ちょっと入らんで』とか『半年待ちやな』とか、ぽろっと出てくることあるでしょ。ああいうのはつながってへんと分からんですから」。ハイテンションボルトの入手難や、鉄骨の納期といった具体的な話題も、協会内の会話から知ることができた。自社ビルに関わってくれた多くのメーカーとの出会いも協会内での賛助会員との交流の場であったことをまた振り返る。即座に仕事に結びつく情報というよりも、設計や工程を判断するための下地となる出会いがそこにあるのだろう。

デジタル化が進み、個々が情報にアクセスしやすくなった一方で、身体をともにする場は減りつつある。そうした時代だからこそ、協会という“顔の見える関係性”が、判断力を支えるインフラとして機能しているのだ。

文化的な交流がひらく未来の建築

仕事につながる業務だけではない。文化的な交流も大切にしたいと話す東影さん。「仕事の話だけやのうてね、建築のこと、街のこと、なんやったら全然関係ない話でもええんですわ。そういうとこから、何か生まれることもあるんちゃうかなって」。印象に残っている出来事として、若手建築家の集まりに参加した経験を挙げた。

「パリのシャンゼリゼ通りのカフェテラスに画家がなんか集まって、お茶飲んだり、お酒飲んだりして、何かが生まれていくようなね、ああいう感じに近いなあって思いましたわ」。その場の主催者のひとりが、神戸支部の北川浩明さんだった。北川さんは現在、元町駅高架下の一角で『KAS（Kobe Architectural Study）』という活動を行っている。建築家有志を中心に、地域における建築のあり方を研究・模索するスタディグループで、トークイベントや自主討論会、地域資源の活用に関する研究会などを継続している。

元町駅高架下で週に1度シャッターをあげて活動するKAS（Kobe Architectural Study）の活動風景

こうした文化的な交流は、すぐに成果が見えるものではない。しかし、建築を取り巻く視野を広げ、次の仕事の種を静かに育てていくものだろう。

見えない関係性が建築となって残り続けていく

「いつでも笑顔でいなさい」。幼い頃から、母親にそう言われ続けてきたという東影さん。独立当初の厳しい時期も、三畳一間の事務所で汗を流しながら図面を描いていた日々も、その言葉に励まされたことが何度もあった。

東影さんが大切に保管している母からの絵手紙

実家の敷地の一角に事務所を持つことを提案し、静かに見守ってきた父母の存在。経営と設計の両面で伴走してきた奥様。ともに働くスタッフや、地域の職人、メーカーの担当者たち。そして、建築士事務所協会という、顔の見えるネットワーク。感謝の想いで一杯だと話す東影さん。

東影建築設計事務所の自社ビルは、そうした多くの人との関係性のなかで立ち上がってきた。建築は、一人の建築士の才能だけで完結するものではない。人と人のあいだに積み重なった信頼や対話が、空間として結実したものだ。

街角に立つ一棟の建築を解体していくと、そのなかには無数の関係性がはり巡らされていることが見えてくるだろう。そうした見えていない建築の裏側にある構造に光をあててみると、街と人とをつなぐ風通しがより一層よくなっていくのかもしれない。

兵庫会活動

40 - 近畿ブロック大会
41 - 全国大会（新潟大会）
42 - 姫路支部ミライ推進委員会第2回イベント「BIMを介しての将来の設計事務所の在り方について語る会」レポート

一般社団法人日本建築士事務所協会連合会

近畿ブロック大会

2025年9月12日（奈良県奈良市）

兵庫県建築士事務所協会 副会長
スペースプロ一級建築士事務所 岡田 俊彦（神戸支部）

毎年１回、近畿２府４県の単位会ローテーションで実施されている近畿ブロック大会。令和７年は奈良会の幹事で奈良市、奈良ホテルを会場に開催されました。

先ず、開会あいさつは、近畿ブロック協議会の会長である兵庫会、原田会長（令和７年１０月にご逝去されました）から「会員増強に近畿の各単位会が尽力し、新規入会が増えており、これから若い世代の活躍で会員増にますます期待がもてる」とのご挨拶。

上野日本建築士事務所協会連合会長をはじめ、来賓のご祝辞のあとは講演会に。講演は、興福寺の執事長兼境内管理室長 辻 明俊 氏による、興福寺大修繕についてのお話。興福寺の由来や奈良時代、平安時代、鎌倉時代での釘のつくりや木組みについての説明のあと、五重の塔「落雷対策」について。

「塔は、奈良の都の守りとして小高い丘の上に建ち、しかも当時にしては周囲からグンっと高い高層の建築物であったので、４度の落雷による焼失という被害を受けましたが、江戸時代初頭に再建されてからは今日までの400年は、一度も雷による被害を受けていない。どうしてかわかりますか～～建築のプロのみなさん、どう思われますか」の問い。会場から「江戸時代に避雷針があったんですか？」などひそひそ声が出るなか、「塔の最上階の四方に雷除けのお札を貼ったんですよ、これが効きました」とのことで参加者から「お～～なるほど」と、大きなどよめき…。建築家による講演とは方向性が違って、なかなか楽しく興味深い内容でした。

そのあとは、奈良ホテルの建築見学ツアーに。係の方の御案内で奈良ホテルの由来や、創建当時の家具、調度品、宿泊された皇族方、世界の映画スターの写真などを説明いただきました。

印象に残ったのは、開業の前年に長崎市の長崎ホテルが倒産廃業となり、家具、食器類の処分販売が開催された際、長崎の「N」と奈良の「N」が同じなので「N」マークの入ったフォークなど銀食器を買い付け、奈良ホテルの創業時に使用し、今もそのマークは引き継がれて食器に刻まれているとのこと。創業時の銀食器もきれいに磨かれて展示してあり、往時の厳かで艶やかな雰囲気を想像し、興味深く見学ができました。

懇親会はバンケットルームで、雅楽の舞と演奏の後、ホテルのコース料理、素晴らしい古都奈良のひとときを堪能しました。

一般社団法人日本建築士事務所協会連合会

全国大会（新潟大会）

2025年10月3日（新潟市朱鷺メッセ）

兵庫県建築士事務所協会 副会長
スペースプロ一級建築士事務所 岡田 俊彦（神戸支部）

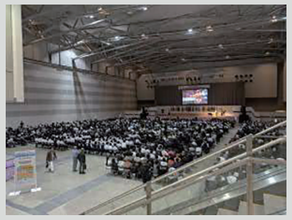
日本を代表する建築家・槇文彦氏設計の朱鷺メッセ（2003年竣工）での開催となった全国大会、10月３日、真夏のような日差し、快晴の新潟市で実施されました。

大会は日事連上野会長からの開会あいさつでスタート、新潟県知事からの歓迎と令和６年１月能登半島地震で新潟でも液状化被害が一部発生し、全国から支援を受けたことへの感謝の言葉、各来賓からのご祝辞と続きました。

その後の建築家 山本理顕氏の記念講演では、作品と様々な受賞紹介もそこそこに、今、世界で起きている「大きな資本による都市と暮らしの破壊」についてのお話でした。その要旨は「アジアなど経済的に弱い地域に、強大な資本が巨大なショッピングモールやホテル、高層マンションなどを次々に建設して、地元に根付いていた人々の生業を壊し、地域コミュニティーを破壊している」とのこと。

「アジアの小都市で地元の人々の近くに泊まり、交流を深めながらその暮らしに接していると、資本による

利益優先の開発が壊し、失われてゆくものが、いかに大切なものか貴重なものかを感じることができた。街並みや景観という建築的なものだけではなく、暮らしという文化を壊してしまい元に戻せない、それは暴力だ」と山本氏の滞在記録映像などを交えながら紹介。「日本でも、タワーマンションの建設は都市景観や街という姿かたちだけではなくて、人々の暮らしと地域の個性や文化までをも壊してしまうように感じている」と語られました。



山本氏のような国や自治体の大きなプロジェクトを担ってこられた日本の代表的建築家がそのような想いを持っているということに大きな驚きと気づきがあった講演でした。

次の全国大会は令和８年10月２日金曜日、京都市のロームシアターを会場として開催が決定しています。皆様、日程キープをお願いします。

姫路支部ミライ推進委員会第2回イベント

「BIMを介しての将来の設計事務所の在り方について語る会」レポート

ミライ推進委員会委員長
株式会社小野設計 野﨑 正樹（姫路支部）

姫路支部では、支部に所属されている会員及びその事務所スタッフ同士の交流の機会をつくり支部活動を盛り上げていこうとの意向のもとに、「健康推進委員会」と「ミライ推進委員会」という2 つの委員会が2023年に設立されました。「健康推進委員会」では、東影委員長のもとゴルフなどの各種スポーツレクリエーションを通して定期的に交流活動が行われています。対して「ミライ推進委員会」は、名称からは何を目的とした委員会なのかがわかりにくいのですが、会員みなさま、その事務所スタッフ、さらには姫路や西播地区の行政関係者や建設関係者も巻き込んで、ミライにつながるような面白いことを何でもやってみようという会になります。

ミライ推進委員会の活動としましては、2024年6月に「姫路駅周辺の街づくりについて語る会」と銘打って、姫路駅から姫路城を結ぶ姫路のメインストリートである大手前通りを活性化させる活動をされている梶原伸介さん（建築家・はりま家守舎代表）のお話を伺い、姫路大手前通りのミライについて参加者同士で語る会を開催いたしました。この「語る会」というイベントは、よくある講演会スタイルの会（講師のお話を聞いて終わりという流れの会）ではなくて、講師の話をネタに皆でそのテーマについて語ろう＝交流しようという思惑で開催しています。この第1回語る会では、講師の梶原さんご自身が街づくりの社会実験の一つとしてご自身で開業・経営されているクラフトビールコガネというお店を会場にお貸りして、皆で梶原さんご自慢のクラフトビールを頂きながら飲んで騒いで（？）の、大いに楽しんでいただけた会となりました。そして2025年6月に1年ぶりとなる第2回語る会を開始いたしました。

第2回語る会は、「BIMを介しての将来の設計事務所の在り方について語る会」と題しています通り、昨今の設計技術におけるBIM化・DX化の流れについて、テクニック的な側面ではないアプローチで講師の方にお話しいただき、設計の、そして設計事務所のミライについて皆で語る会として開催いたしました。今回は第1回の反省～第1回ではクラフトビールを頂きながらの会とした結果、各テーブルで話が盛り上がり、結果として講師の話をあまり聞いていただけなかった（笑）～を踏まえて、まずは講師の話を皆で聞き、そのあとテーマに沿って皆で語るという2部構成で開催いたしました。また、少しでも多くの方に参加いただき交流の幅を広げたいとの意向に賛同いただき、西はりま支部との共同で開催いたしました。

さて、第2回語る会ですが、2025年6月21日 土曜日に、姫路大手前通りに面したBIZPLASE HIMEJI の貸スペースにて開催いたしました。先に述べたテーマに沿ってお二人の講師に講演いただきました。初めに、講師の婦木 徹様（一般社団法人事業継承・後継者育成研究会座長）から、日本と世界各国とのGDPや経済成長率比較、世界と日本の建築士の待遇や給与面の比較という切り口をもとに、いかにして建築士の生産性や作業効率を上げて、職能としての認知度や本来その価値がもっと認められるべきデザインへの取組をどう進めていくべきか、そしてそのためにBIMをはじめとしたDX技術をどのように活用していくべきかというお話を伺いました。CADに代わるソフトとしてのBIM活用といった

一般的な視点とは異なる切り口での婦木様の話は、お話の根拠となる資料が示す色々な指標や実態も含めて、大変衝撃的で興味深い内容でした。

続いて講師の杉田 宗様（広島工業大学環境学部建築デザイン学科准教授）から、ご自身の大学での学生への指導内容や広島でのBIM普及のための取組等についてご講演頂きました。

昨今の建築系大学ではCADには触れずにいきなりBIMにて設計課題に取り組む実態や、3Dプリンターや木材3D加工機を使った模型製作等の話は、10年以上前に大学で建築を学んだ者にとっては、その時代の流れと技術の進歩にさらなる衝撃を受けたのではないかと思います。その一方で、そういった環境で建築を学んだ学生がいざ社会へ出てみると、BIMではなく2次元CADで実務を行っている現場への戸惑いや、学生が大学で学んだポテンシャルを生かせない環境へのジレンマといったお話も興味深く、参加者みな神妙にかつ色々と思うところありながらその話を伺いました。また、そうした環境を変えるべく杉田先生の地元広島での活動事例としてご紹介いただいた、いろんな設計事務所やゼネコン設計部が参加してのBIM研究会などは、見習うべき点がたくさんあるお話でした。

語る会の様子

公演の後の親睦会（昨年に引き続きクラフトビールコガネで開催）では、参加いただいた皆さんがビール片手に会社の垣根を超えてあちこちでいろんな話が行きかう場となり、時間があっという間に過ぎてしまい、盛況のうちに会を終えることが出来ました。

親睦会参加者集合写真

第1回では姫路のまちづくりという観点で、そして第2回では我々建築士のミライについて、皆で考え語りあう機会を設けることが出来たのは、ミライ推進委員会の活動冥利に尽きるところでした。第3回に向けた企画準備も引き続き進めてまいりますので、姫路支部以外の方も振るってご参加いただきたく、どうぞよろしくお願いいたします。また、ミライ推進委員会のスタッフも絶賛募集中ですので、活動に興味を持っていただいた方がいらっしゃいましたら、姫路支部へご一報よろしくお願いいたします。

いち支部の末端組織の活動ではありますが、建築士事務所協会を盛り上げる一助になりますように。